



## あいさつ

新潟県小中学校教頭会会長  
五十嵐 功

第51回新潟県小中学校教頭会研究大会、第9回ブロック研究大会の開催にあたり、新潟県小中学校教頭会を代表いたしまして、一言、御あいさつを申し上げます。

はじめに、本研究大会を開催するにあたり、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会をはじめ、関係諸機関・諸団体から御後援・御支援いただきましたことに、心から感謝申し上げます。また、公務御多用にもかかわらず、本研究大会に御臨席を賜りました御来賓の皆様方に厚くお礼を申し上げます。さらに、本研究大会の会場を快く御提供いただきました関係御当局・施設関係者の皆様方に感謝申し上げますとともに、分科会において御指導いただきます指導者の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

本研究大会は、全国公立学校教頭会の第十期全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育む学校教育（キーワード 生き抜く力・絆づくり）」の下に、研究を継続してきた2年目の大会にあたります。この間、新潟県小中学校教頭会では、全国統一研究主題を受け、「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校づくり」を本県独自のサブテーマに掲げ、今日的な課題解決に取り組んできました。昨年度の第50回新潟県小中学校教頭会研究大会（全県研究大会）の成果と課題を踏まえ、更なる「研究課題の焦点化」を図ります。また、研究の3つの柱「研究の継続性」「組織研究としての協働性」「学校運営における教頭の関与性」に焦点を当て、会員の参加意識を高め、継続研究の成果や課題が会員一人一人に共有され、学校教育に関わる様々な課題解決に寄与できるようにします。会員一人一人が本研究大会に主体的に参加し、各教頭会で取り組んだ実践について協議し、互いに学び合い、成果と課題を共有しながら、教頭としての資質・指導力の向上を図りましょう。本研究大会が大きな成果を挙げる大会になることを期待しています。

さて、教育再生実行会議が、一区切りとなる第八次提言を7月8日に行いました。これらの抜本的な教育改革についての提言を受けて、いじめ防止、教育委員会改革、大学ガバナンス改革、学制改革のための法律制定・改正などが着実に実行されてきています。今後、人材育成を担う学校教育や私たち教職員に課せられた使命は一層重要なものになると考えます。人口減少社会、グローバル化、少子高齢化、東日本大震災など、直面する様々な課題に対し、教育こそがこれらを解決できるという強い使命感をもつとともに、困難にも自ら進んで立ち向かい、学び、成長し続ける鑑であることが、今、私たち教職員に求められていると言えます。

また、新潟県教育振興基本計画では、今後目指すひとづくりの姿として、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり」を掲げています。その実現に向け、最前線に立つのがそれぞれの学校であり、その先頭に立つのが私たち管理職です。私たちは、教頭として求められる職責を改めて自覚し、これからの激動の社会を生き抜く児童生徒に、多様な人との絆づくりを通して、自ら考え、問題を解決し、新たな価値を創造する力を育て、活力ある学校づくりを進めることによって、学校教育に寄せる期待に応えていかなければなりません。

最後になりましたが、本研究大会を開催するにあたり、継続的に取り組まれた実践研究の成果を発表していただきます各郡市教頭会の提言者・共同研究者・支援者の皆様、そして、本日まで、一層充実した研究大会になるよう、工夫を凝らし、誠心誠意、準備を進めてくださいました主管教頭会の実行委員会の皆様に対し、心から深く敬意と感謝を申し上げ、あいさつといたします。